青梅療育院のお知らせ　　令和３年１０月号

発行責任者／七枝　隆志　　編集／介護老人福祉施設　青梅療育院情報委員会

《社会福祉法人 仁育会 経営理念》

地域との連帯を深め信頼される社会福祉施設としての確立と、安心と安全を守るゆとりある生活支援を目指します。

《青梅療育院運営方針》

1. 利用者から安心されるサービスの提供
1. 生活の安全を守るサービスの提供
1. 要介護度に応じた適切なサービスの提供

＝１０月の行事計画＝

４日（月）誕生会
８日（金）選択食
１８日（月）理髪２階
２２日（金）選択食
２４日（日）大運動会
２５日（月）理髪３階
※日付未定　変わり湯

＝１１月の行事計画＝

３日（水）文化祭
８日（月）誕生会
１２日（金）選択食
１６日（火）理髪２階
１９日（金）寿司の日
２３日（火）理髪３階
２６日（金）選択食
※日付未定　変わり湯

＝地域に根ざした福祉を目指して＝

日本がいま世界に類を見ない人口の少子高齢化が進んでおり、６５歳以上の高齢者人口の比率は総人口の４分の１を超え、これに伴って年金・医療・介護などの社会保障給付費の国家予算が、年間１００兆円を超えていることから、これからの社会保障制度の持続については極めて厳しい財政状況が予測されます。

加えて新型コロナウィルスの世界的な感染拡大によって、経済への打撃も大きく影響してきていることから、国民全体の健康管理意識の向上が強く求められるなかで、福祉・医療への国民的関心が高まってきております。

国民全体の生活水準の向上によって社会保障制度が充実し、医療保険や介護保険制度が行き渡り、誰でも適切な医療や介護を受けることができるようになったことにより、高齢期の生活を支える長寿社会の飛躍的な形成が進んできたといえます。

この長寿社会を長期的に維持していくために、医療と介護サービス提供体制の改革に向けて「医療と介護の連携」と、「地域包括ケアシステム」というネットワークの構築が強く求められています。

「地域包括ケアシステム」とは、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう医療・介護・介護予防・生活支援サービスを一体として考え、日常生活圏内で利用者のニーズに合わせて、切れ目のない支援を提供できる体制を確立していくことです。

特に高齢化の進行が進んでいる東京都では、単独または高齢者のみの世帯の割合が多くなり、特に認知症高齢者の増加が著しいことと、生活困窮者が多いことなどの理由から、高齢者が住み慣れた地域に住み続けることが困難であるという現実があります。

地域包括ケアシステムは、保険者である区市町村が地域の自主性に応じて実施していくものですが、地域の独自性や介護ニーズに応じた支援サービスを提供していくためには、地域の中で特別養護老人ホームが中心となって、重要な役割を果たすことになっています。このために特別養護老人ホームが単に施設内の介護業務に従事するだけでなく、地域の福祉ネットワークの活性化への協力活動が含まれてくることになっています。

そのため施設が地域の情報収集や相談窓口となり、介護支援の技能を地域

にも拡大していくことが、これからの社会福祉事業に求められていますので、地域に根ざした介護サービスを含め、総合的な事業の展開に努めていくことになります。

９月の個別ドライブレク

恒例になった個別のドライブレク！９月は４回のドライブレクを開催しました。大好きな洋楽を聞きながらドライブしたいというリクエストもあり、洋楽を聴きながら横田基地やわかぐさ公園をドライブしました！

十五夜お月見で茶話会を開催しました！！

９月２１日　十五夜お月見の茶話会を開催しました。例年は夕食後に開催するのですが、「夕食後ではお菓子が食べられない」という意見があり、今年はおやつの時間に茶話会を開催しました。中秋の名月を鑑賞しながらとはいきませんでしたが、お月様のタペストリーを鑑賞しながら、美味しいお菓子をいただきました

９月２０日　敬老会

今年は古希（70 歳）2 名、喜寿（77 歳）3 名
傘寿（80 歳）2 名、卒寿（90 歳）1 名が表彰
されました！！

～会場風景～

～今年の表彰者～

～ビデオレター＆カラオケ大会～

～お祝い御膳～